

地域連携だより *Face to Face* 第42号

役職等はすべて取材日時点のものです。

- 地域連携だより「Face to Face」は、主に医療職・介護職などの、ケアを担う多職種向け情報紙です。地域の様々な情報が皆様に共有されることで、顔の見える関係構築や相互理解推進の一助となることを目指します。
- 地域連携だよりは、地域包括ケアシステムの充実に資する皆様の取組みを広く一般にも周知するため、市ホームページで公開しています。

認知症高齢者徘徊 SOS ネットワーク 「どこシル伝言板」スタート

市では、認知症高齢者の徘徊事故発生時の早期発見・早期保護を図り、安全をサポートする取り組みとして「認知症高齢者徘徊 SOS ネットワーク」事業を実施しています。

この事業ではこれまで、徘徊が心配される認知症高齢者等について、ご家族等が事前登録すると市から「早期発見ステッカー」が配付され釜石警察署と情報を共有する取り組みや、岩手県警察が安心安全情報を提供する「ぴかぼメール」の普及等を行っており、早期発見・早期保護に繋げています。

この事業の一環として、11月1日から「どこシル伝言板」の取り組みを開始し、新しい見守りのカタチとして認知症の人などが安心して暮らせるまちづくりを目指します。

「どこシル伝言板」とは…

自治体、地域住民、警察、消防、医療、介護、福祉等が担う「地域のみまもりネットワーク活動」を支援するシステムです。

認知症等で見守りが必要な方に QR コードラベルシールを配布し、このシールを身に付けた方を見かけた際に、発見者が QR コードを読み取ることで事前に登録したご家族にシステム（ネット上の伝言板）を介して連絡を取ることができます。



介護サービス事業所・関係機関向け説明会を開催します

10月27日、チームスマイル釜石 PIT を会場に、「どこシル伝言板」の説明会を開催します。
(新型コロナウイルスの感染状況により開催方式等が変更となる場合があります)

詳しくは、後日、市地域包括支援センターから関係機関へ送付する案内をご確認ください。



第1回釜石市地域ケア推進会議を開催しました

7月29日、釜石情報交流センターを会場に、令和3年度第1回釜石市地域ケア推進会議を開催しました。当日は委員及び庁内外のオブザーバーを含む約30人が出席しました。

会議では、はじめに「複合的な課題を抱えた世帯」の課題解決策について検討し、委員の皆さんの多様な視点から課題を捉えることができました。

また、2月26日に行った前回会議の振り返りのほか、市子育て世代包括支援センターからは支援を必要とする人の移動手段に関する課題や検討案について情報提供が行われました。

今年度は計3回開催予定の当会議ですが、今後も様々な事例を検討し、抽出した課題を分析し、今後に繋げる場として運営していきます。



地域ケア推進会議の開催に先駆けて、7月20日には、釜石市地域包括ケア推進アドバイザーである寺田尚弘氏（釜石医師会）及び後藤純氏（東海大学）と、釜石市長・副市長をはじめとする関係部局長との懇談会を開催しました。

当日は後藤氏がオンライン参加となりましたが、地域共生社会を目指して本市がどのような取り組みを行えるのか、政策の紹介や実際の活動などを挙げながら、ざっくばらんに意見を交わしました。

OK スクラムねっとの
取り組みをお知らせします



平田「つながるカフェ」
開催準備中!!

県立釜石病院を中心とした多職種連携の会「OK スクラムねっと」は、8月3日にオンラインによる世話人会を開催しました。

昨年度はコロナ禍のため総会・研修会等が開催できませんでしたが、今回の会議では「開催方法を工夫し、状況に応じて総会等を行いたい」といった意見が挙げられました。

これを受けて、事務局では、ハイブリット形式での総会開催に向けて準備を進めています。

平田地区センター会議では、地域包括ケアの基盤形成として、行政・社会福祉法人・住民らが協働でプラットフォームづくりを進めており、その一環として「つながるカフェ（通称：つなカフェ）」の開催準備を進めています。

「つなカフェ」は、相談や交流、健康づくり等を通じて「地域の安心を支える場」となるコミュニティカフェです。地域ごとに環境や資源は異なりますが、今後の取り組みのモデルの一つとして期待されます。



小佐野地区センター会議が開催されました

6月28日、小佐野地区生活応援センターにおいて、令和3年度第1回小佐野地区センター会議が開催されました。

地区センター会議は、地域の福祉課題や地域活動について共有し、地域資源（サービス）の開発を検討する場として開催されてきましたが、今年度からは多様な福祉課題のベースにある「地域で支える必要がある個別ケース」について具体的に協議する役割が加わりました。

今回、初のケース検討となる小佐野地区センター会議は、地域包括支援センターの協力のもとで開催され、引きこもり課題を抱える高齢者世帯の支援に向けて、医療・介護・福祉関係者からなる参加者が意見交換を行いました。出席した民生委員からは「このような場があると速やかな支援に繋がる」と歓迎の声がありました。



緊急医療情報キットが民協で周知されました

令和2年度実施の「チームかまいし在宅医療・救急医療連携推進事業」では、緊急医療情報キット「命のきずなカプセル」が救急の現場で役立つことが話題となり、より広く、繰り返して周知することの必要性が認識されました。

また、緊急医療情報キットの説明について民生委員から要望があったことから、市内8地区で毎月開催されている「民生委員児童委員協議会(民協)」の令和3年6月定例会において、市地域福祉課が「命のきずなカプセル」について改めて説明し、普及推進について協力を呼びかけました。



一次連携を進めています



7月7日、保健師とチームかまいしとの一次連携を実施しました。

当日は釜石市役所の保健師14名が出席し、釜石版地域包括ケアシステムに関する説明やOKはまゆりネットの利用促進に関する協議を行ったほか、市内8地区の生活応援センター管区について、保健師ならではの視点で現状や課題等に関する意見をいただきました。

8月24日、釜石歯科医師会が新体制になって初めての一次連携をオンラインで開催し、歯科医師会3名、チームかまいし3名の計6名が参加しました。

歯科医師会からは、歯科の在宅医療や地域包括ケア連携に関する課題があげられたほか、チームかまいしと協働して開催する予定の歯科医師会の研修について内容等を協議しました。



SEE vol.21

会う・見る・調べる
聞く・知る・わかる

医療機関・介護施設や、その活動等を紹介していく不定期連載「SEE」。今回は、本年7月に開院した「武田整形外科」の武田院長にお話を伺ったほか、市内で近年新たに診療を始めた医師お二人にお話を伺いました。

武田整形外科 武田 三十郎 院長

◆ クリニックの概要を教えてください。

医師1名、看護師3名、理学療法士1名、医療クラーク2名、事務3名、看護・リハビリ補助3名の13人体制で整形外科とリハビリテーション科を運営しています。県立釜石病院を受診する前のファーストタッチの役割を担い、診察・処置・検査などを一通り済ませられるように努めています。

◆ クリニックの開院に至る経緯などを教えてください。

研修医時代から長く県立釜石病院で働いてきました。震災で思うように患者さんを助けられなかった悔しさを晴らしたいという思い、釜石のおじいちゃんおばあちゃん、診察させていただいた多くの患者さんに医者として育ててもらったという気持ち、そして何より大好きな釜石にずっと居たいという思いでクリニックを開院しました。

◆ 多職種の皆さんへ一言お願いします！

自分は多職種の方からああしてほしい、これはできないか等と言われると「ラッキー！」と思うタイプなので、意見・相談・要望など何でも言ってもらえると嬉しいです。

温かく寛げる雰囲気の待合室にて



釜石への愛が詰まったクリニックです



〒026-0055 釜石市甲子町 10-159-209
Tel.0193-23-3030 <https://takedaseikei.jp/>

釜石ファミリークリニック 関 利満 医師

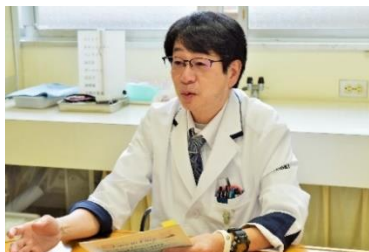
2020年2月より現職

釜石とは平成17年、市民病院統合の頃からの縁です。震災時は釜石のぞみ病院にいましたし、最近ではせいてつ記念病院で救急当直をしていました。顔なじみや昔なじみが多く、在宅患者さんの入院時など親身になっていただけて助かっています。

今のところ多職種の皆さんと直接お話する機会は少ないですが、気軽に声を掛けてください。

多職種の皆さんへ ひとこと

住みやすい町になるように、まずは自分、家族、友人の健康に気をつけていきましょう。



堀耳鼻咽喉科眼科医院 堀 亨 医師

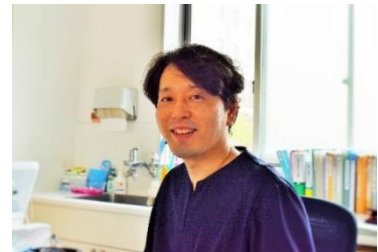
2021年1月より現職

これまで宮城県内や岩手医大附属病院等の耳鼻咽喉科で診療してきましたが、長く地域医療に貢献してきた両親(堀晃院長、堀美知子医師)に思いが至り、釜石での診療に従事することにいたしました。

今後は地域医療に尽力し、特に嚥下や難聴の正確な評価に取り組んでいきます。結果はきちんとフィードバックしますので、ぜひお声がけください。

多職種の皆さんへ ひとこと

難聴は孤立を深めうつや認知症に繋がります。聞こえや飲み込みのご相談はお早めに。



編集後記

- 取材に応じていただいた先生方、釜石市に来ていただきありがとうございます。本当に有難いです!!(O)
- 9月20日は「敬老の日」でした。釜石市では90歳以上の人口が1,000人を超え、今後ますます見守り等のケアの重要性が増していくと思われます。皆で支えていける地域を目指して今後も取り組んでいきます(N)

発行/在宅医療連携拠点チームかまいし

〒026-0025 釜石市大渡町3丁目15番26号
TEL: 0193-55-4536 FAX: 0193-22-6375
【E-mail】kea@city.kamaishi.iwate.jp
【HP】<https://www.city.kamaishi.iwate.jp/category/bunya/tiikihoukatukea/zaitakuiryourenkei/>
【FB】<https://www.facebook.com/teamkamaishi/>